

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	灌漑施設を整備し、各種研修を通じて人材の育成と技術習得を図ることによって、農村部の世帯年収が増加し、生活の質が向上する。
(2) 事業内容	<p><u>1. 生活インフラ整備</u></p> <p>1-1. <u>ミニ灌漑整備（貯水槽の建設・修復・排水管敷設）</u> スルシルバリ村において、新規貯水槽（165,000 リットル）の建設と破壊された既存の貯水槽の修復・補強工事、排水管の敷設を行い、ミニ灌漑設備が完備された。</p> <p>1-2. <u>配管修復のための技術研修</u> ロックダウンの影響で研修開始が2020年10月5日と遅れたが無事に12月24日に21人が60日間の講義と演習が終了した。技術演習の一環としてミニ灌漑整備工事にも関わった。</p> <p><u>2. 生活向上技術研修</u></p> <p>2-1. <u>酪農技術研修</u></p> <p>2-2. <u>酪農乳製品製造用資機材購入</u> 酪農乳製品の製造に必要な機材（小型ミルク冷却タンク、低温殺菌装置、ミルク攪拌機、乳製品製造機、小型冷蔵庫、梱包装置、冷蔵プレート、ミルク缶、洗浄用のソーラーヒーターウォーター、ウォータータンク、ミルク用ポンプ、ミルク分析機）を購入した。25人の地元酪農家が参加し、ヨーグルト、ハードチーズといった付加価値の高い乳製品を製造、管理、販売の講義と演習を行った。 第1回目：1月2日～6日（5日間） 第2回目：2月26日～3月3日（5日間）</p> <p>2-3. <u>モデル事業視察研修</u> 2021年1月に、シンドウルパルチョークから24人が参加して3日間のモデル事業の視察を行った。 1日目：チャングナラヤン、キャンディー作りと生理ナプキン製造の見学、ムルパニ酪農場の見学 2日目：ハセマパーマカルチャーセンター、パーマカルチャー手法の農業を見学 3日目：キウイフルーツ、ドラゴンフルーツ農場を見学</p> <p>2-4. <u>生理用ナプキン製造研修と縫製研修</u> インドから生理用ナプキン製造機を運送する時期にインド側国境で農民によるデモが発生。ネパールへの輸入に時間がかかるが、2月中旬にはネパールに到着。講師と機械操作技術者の指導の元、参加者10名が3日間の講義と製造機操作の演習を行った。裁縫研修は、工業用ミシン2台、材料等を購入。10名が9月4日からの60日間に及ぶ講義と演習を受けた。</p> <p><u>3. 地域復興計画と協力体制の構築</u></p> <p>3-1. <u>住民参加型復興会議</u> ICA ネパールのDr. Tatwa P. Timsinaが講師として、地元グループ30人が参加して、事業終了後の引継ぎ等の話し合いの会議を持った。具体的に地域復興計画として実践できる計画を作成した。</p> <p>3-2. <u>モビリゼーションセミナー、モニタリングと評価研修の実施</u></p>

	<p>全事業地 5 村にて、本事業の活動内容、目的、期待される効果等についてのモビライゼーション、事業最終段階で、裨益者からの本事業への質疑応答型の調査を行った。</p> <p>モビライゼーション</p> <p>スロシルバリ村 (7月4日、10名参加 (男性9名、女性1名)) カルキタール村 (7月9日、33名参加 (男性10名、女性23名)) カダンバス村 (7月13日、9名参加 (男性1名、女性8名)) カリカ村 (7月27日、16名参加 (男性8名、女性8名)) イルク村 (9月22日、33名参加 (男性15名、女性18名))</p> <p>モニタリング</p> <p>スロシルバリ村 (12月8日、28名参加 (男性7名、女性21名)) カルキタール村 (12月10日、27名参加 (男性14名、女性11名)) カダンバス村 (12月6日、25名参加 (男性10名、女性15名)) カリカ村 (12月10日、25名参加 (男性16名、女性9名)) イルク村 (12月3日、25名参加 (男性12名、女性13名))</p> <p>評価研修</p> <p>スロシルバリ村 (2月12日、25名参加 (男性17名、女性8名)) カルキタール村 (2月13日、25名参加 (男性13名、女性12名)) カダンバス村 (2月15日、25名参加 (男性12名、女性13名)) カリカ村 (2月16日、25名参加 (男性21名、女性4名)) イルク村 (2月14日、25名参加 (男性12名、女性13名))</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1. <u>生活インフラ整備</u></p> <p>1-1. <u>ミニ灌漑整備 (貯水槽の建設・修復・排水管敷設)</u> ミニ灌漑整備を整えたことにより、250世帯が乾季の農作業に参加出来るようになる。2021年2月27日に地元政府関係者、住民、灌漑委員会立ち合いの元、譲渡式が行われ今後の灌漑の整備と管理は、住民の協力の元灌漑委員会が行うことが約束された。 配管研修に参加した受講生が、排水管敷設作業にかかわることで経験を積んで技術が向上し、10名がコミュニティにて仕事に就くことができ平均月30000ルピーの収入を得た。また、女性が3名参加したことにより、まだ女性蔑視が残る地方のジェンダーの平等と女性の地位の向上に貢献した。</p> <p>2. <u>生活向上技術研修 (酪農・ナプキン製造・縫製)</u></p> <p>2-1. <u>酪農技術研修</u> 周辺農家の関心が高く、研修に参加していない人の見学が絶えなかった。材料費の牛乳は参加者からの提供であり、一部の研修参加者を含む周辺農家が参加して酪農委員会が設置されたことから本研修の関心の高さがみられた。</p> <p>2-2. <u>生理用ナプキン製造研修</u> 本事業で購入した生理用ナプキン6枚を1パックにして、60ルピーにて販売を行い、1か月80パックの売り上げを計画する。</p> <p>2-3. <u>縫製研修</u> 研修で、地元学生に制服を提供する。周辺地域の学校の先生からも、地元で質の良い制服を購入することができると大変期待された。研修生が中心となって女性グループが組織化され、他のコミュニティで研修生による縫製研修が行われた。</p>

	<p>3. 地域復興計画と協力体制の構築 (住民参加型復興会議、モビリゼーション・評価研修) 住民参加型復興会議では、地元の各団体のリーダーが参加して、現状分析が行われたことにより、問題や課題点が見えてきた。各リーダーは、自分の役割と責任を明確にして、コミュニティの貢献を約束した。</p> <p>モビライゼーションと評価研修では、各村における本事業の事業内容を理解することによって協力体制が高まった。具体的には積極的な事業への参加がみられた。全5村すべてに25人以上が参加し、聞き取りの結果、全員がスタッフのプレゼンテーションや話し合いにより事業を理解した。</p>
(4) 持続発展性	<p>ミニ灌漑整備は地元政府関係者の関心も高く、コミュニティが所有管理することとなり、ダム局等関係部署からも技術的な支援がもらえるようになったことにより、今後は、さらに二毛作が可能となるための畑の拡大のためにパイプラインを広げることなども構想されている。研修にて取得された技術の高さから、ミニ灌漑整備の排水管のメンテナンスを担当することになる。</p> <p>ナプキン製造機の導入による生産活動が村人の関心が高める。村でタブー視されていた女性の生理問題について人々の理解が高まり、女性蔑視が削減された。</p> <p>本事業の裁縫研修を受けた受講生が講師となって、今回参加できなかった他村の女性に指導を行った。今後も同じような研修をトレーニングセンターで行う予定である。これらにより、女性の収入向上率が高くなり、また、研修参加者の技術を高めることにより指導者育成にも貢献し、地方における女性のエンパワメントも強化される。</p> <p>付加価値の高い酪農乳製品を製造後、酪農委員会で車輛を購入して、周辺の村にも販売をする事業拡大の計画がある。委員会でマーケティング調査を行い、販売数が増加することにより、安定した収入が見込まれる。また、酪農乳製品の製造に必要な機材を維持するための電力費、水道費等を売り上げから算出するだけでなく、運営委員会も投資することになる。そのことにより、経営管理能力が向上し、地域一帯に本事業の影響を受けた基盤ができる。</p> <p>村のリーダーが地域復興計画の研修に参加したことにより、地域の問題点や復興への期待の高さが浮き彫りになった。問題解決法を研修で公にして話し合うことができたことにより、住民の手で自律的に復興と発展に向かうことができる。</p>